

七尾鹿島珠洲会が発会40周年記念

西山郷史氏(珠洲市)が講演

「能登立国1300年〜七尾・珠洲を中心とした

能登の民俗・歴史・文化」

珠洲市出身で七尾市と鹿島郡に住む人たちで作る「七尾鹿島珠洲会」は9月25日、七尾市府中町の料亭「番伊」で、発会40周年記念の文化講演会を開催した。講師の珠洲市・西勝寺(真宗大谷派)住職で日本宗教民俗学会委員の西山郷史さん(本誌で『伝説の風景』連載中)が「能登立国1300年〜七尾・珠洲を中心とした能登の民俗・歴史・文化」と題して講演した。

珠洲市出身で七尾市と鹿島郡に住む人たちで作る「七尾鹿島珠洲会」は9月25日、七尾市府中町の料亭「番伊」で、発会40周年記念の文化講演会を開催した。講師の珠洲市・西勝寺(真宗大谷派)住職で日本宗教民俗学会委員の西山郷史さん(本誌で『伝説の風景』連載中)が「能登立国1300年〜七尾・珠洲を中心とした能登の民俗・歴史・文化」と題して講演した。

る。そういうことで、今日は立国1300年ということで、お話をさせていただきます」と切り出した。西山さんは、現在もある羽咋、能登(のちに鹿島)、鳳至、珠洲という地名は、能登国が出来た時の郡名であることと、その地名にまつわる神話・伝説が豊富にあることなどを紹介したあと、加賀藩士、浅加久敬あさひひさのりが著した『三日月の日記』に初めて「能登はやさしや土までも」という杵歌が登場することにも触れた。

西山さんは「718年、養老2年に能登は、越前国から独立しました。2年後の2018年には、能登国立国1300年を迎えるわけです。私は能登の国ほど、いろいろなもの、変わらずに現在まで続いている地域は、他にはないと思います。1300年が、そのまま残っている。ということは、能登(国)を少し歩くと、日本の歴史が全部わかるんですね。私たちは歴史を知らないために、大事なことを見失っているところがある

る。そういうことで、今日は立国1300年ということで、お話をさせていただきます」と切り出した。西山さんは、現在もある羽咋、能登(のちに鹿島)、鳳至、珠洲という地名は、能登国が出来た時の郡名であることと、その地名にまつわる神話・伝説が豊富にあることなどを紹介したあと、加賀藩士、浅加久敬あさひひさのりが著した『三日月の日記』に初めて「能登はやさしや土までも」という杵歌が登場することにも触れた。

西山さんは「718年、養老2年に能登は、越前国から独立しました。2年後の2018年には、能登国立国1300年を迎えるわけです。私は能登の国ほど、いろいろなもの、変わらずに現在まで続いている地域は、他にはないと思います。1300年が、そのまま残っている。ということは、能登(国)を少し歩くと、日本の歴史が全部わかるんですね。私たちは歴史を知らないために、大事なことを見失っているところがある

「土がやさしいということとは、完璧な風景が出来上がっているということですね。何千年もかけて、どこへ行ってもまっすぐにした田んぼです。昔の人は、日本海側は貧しいと決めつけていたようですが、能登は雪が積もる。堤防を作れば米が作れる。山にはコケが実



講演する西山郷史さん